

1 水産資源の持続的な利用

(1) 水産総合研究センターの再編整備

《取組のポイント》

1 試験研究業務の機能強化

研究の高度化・効率化を図るため、必要な機器類の導入及び機器の運用に適した研究室・実験室の整備等を一体的に進めていく。

2 つくり育てる漁業の推進

種苗生産業務の効率化を図り、良質な種苗を安定して生産するため、種苗生産施設を再編整備し、業務の集約化及び新技術の導入を行うとともに、新規魚種を生産する。

【背景】

- ・研究機関は、資源評価の高度化を始め、環境変動、通信・情報技術の進展、CO2 抑制等への対応が求められている。
- ・水産業の成長産業化を支える研究が求められている。
- ・種苗生産施設の老朽化や生産コストの増大が課題となっている。
- ・高単価で放流効果が高い魚種の放流が求められている。

〈取組の内容〉

《これまでの取組》

1 構想及び計画の策定

- 千葉県水産総合研究センターの機能強化に向けた基本構想(平成 30 年 11 月)
- 千葉県水産総合研究センター施設の再編整備計画 (平成 31 年 3 月)
- 千葉県県有建物長寿命化計画 (平成 29 年 11 月)

2 整備の状況

- 本所
施設の大規模改修又は建替に向けて基本計画を策定するための検討を行っている。
- 東京湾漁業研究所
R4 年度に一部施設の解体撤去工事を開始し、施設の建替、大規模改修を進めている。
- 種苗生産研究所 (富津生産開発室、勝浦生産開発室)
R 元～2 に基礎調査、R3～4 に基本設計が終了し、順次、実施設計を行っている。
- アワビ・ヒラメ中間育成施設
R 元～2 に基礎調査、R5 は基本設計に向けて準備中 (R6.2 月契約締結予定)。
- 内水面水産研究所
R4 に実施設計が終了し、R5 はアユ用の屋外水槽の修繕工事に着手している。

《今後の取組》整備スケジュール (予定)

施設名	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
本所		耐震診断	基本計画	地歴調査	地質調査		基本設計
東京湾漁業研究所	調査	実施設計	工事				
種苗生産研究所	富津生産開発室	基本設計	実施設計	工事			
	勝浦生産開発室	基本設計	実施設計	工事			
アワビ・ヒラメ中間育成施設			基本設計	実施設計		工事 (~R10)	
内水面水産研究所		実施設計	工事				

〈事業イメージ〉

1 再編整備の方向性

(1) 試験研究業務の機能強化

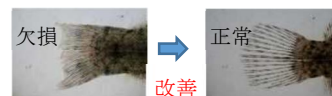
- 本所
 - ☞ ICT を搭載した観測機器の導入による漁場予測の高度化
 - ☞ 研究・事務機能のワンフロア化による業務の効率化 など
- 東京湾漁業研究所
 - ☞ 水質自動分析装置導入による漁場環境把握の迅速化及び分析項目の増加
 - ☞ 実験室の集約化による業務の効率化 など

(2) つくり育てる漁業の推進

- 業務の集約化
 - ☞ 海産魚類を富津生産開発室にアワビをアワビ・ヒラメ中間育成施設にアユを内水面水産研究所に種苗生産をそれぞれ一元化 など
- 新技術の導入
 - ☞ 緑色 LED 設備や半閉鎖循環式システム、紫外線照射殺菌装置の導入 など
- 新規魚種の生産
 - ☞ トラフグを生産するため、新たな飼育棟を整備



新規魚種 (トラフグ稚魚)



緑色 LED 設備の効果

